

旧石器・縄文時代の遺跡

① ^{しんぞういけ}新造池A遺跡・^{くさやま}草山B遺跡 後期旧石器時代（20,000年前）

射水市内には 20 か所あまりの旧石器時代遺跡が知られていますが、発掘調査例が少ないため詳しいことはわかっていません。

県民公園太閤山ランドの中央広場一帯にある新造池A遺跡や池多地区にある草山B遺跡では、石器とともに石器の原石や製作の際にできる石屑も一緒に出土しており、これらの石器のまとまった場所には住居跡などがあったと考えられます。

石器は、肉などを切るナイフ形石器や骨や木に溝や刻みをつける彫刻刀形石器などが、鹿児島県や鳥取県の火山噴出物を含む 4.3～2.4 万年前と推定される堆積土層から出土しています。



草山B遺跡

② ^{みなみだいこうやま}南太閤山I遺跡 縄文時代早期（約9,000年前）～前期（約6,000年前）

北陸自動車道小杉I.Cから北に約 600m の下条川右岸に位置しています。

昭和 60 年（1985）の発掘調査で、地表下 4～7 m から、土器・石製品のほか、サメ・クロダイ・マダラ・シカなどの骨、16 万 5 千個ものクルミの殻が出土しました。

食物の残りを捨てた場所であり、周囲の丘陵上に集落があったと考えられます。イヌの骨も見つかっていますが、こちらは食用ではなく、飼い犬だったようです。



発掘調査の様子



縄文土器

③ ^{みずかみだに}水上谷遺跡【富山県指定史跡】 縄文時代中期（約4,500年前）

北陸自動車道小杉I.Cから南 3.5 km の山間部に位置する集落遺跡です。

昭和 48 年（1973）の発掘調査で、縄文時代中期の竪穴住居跡 16 棟、土坑 13 基、立石 4 個などの遺構が見つかり、縄文土器・磨製石斧・石皿・石鏃（石の矢じり）などの石器が出土しました。



竪穴住居跡



縄文土器

建物は 5～6 棟が 3 つの時期に分かれて建てられていたと考えられます。

④ ^{くしたしん}串田新遺跡【国指定史跡】 縄文時代中期（約 4,500 年前）

射水丘陵の西部、通称「大沢山」と呼ばれる細長い独立丘陵上に位置する集落遺跡です。

昭和 24・25 年（1949・50）に小杉高校地歴部が発掘調査を行いました。

その時に出土した土器は、後に「串田新式土器」として、北陸地方の縄文時代中期後葉（約 4,500 年前）の特徴を示す指標となりました。

その後の調査によって、竪穴住居跡や石組炉跡などが見つかり、丘陵一带に大規模な集落が広がっていることが確認されました。現在、遺跡は史跡公園として公開されています。



串田新遺跡公園



縄文土器

⑤ ^{はりわらし}針原西遺跡（縄文時代中期～後期：約 4,500 年前）

射水平野の中央にある低湿地遺跡です。川跡から多量の貝殻を含む土層が見つかりました。

貝殻は、ヤマトシジミ・カキ・カワナなど海水・汽水・淡水性の貝で構成されており、当時の水域（古放生津潟）の範囲を示す資料となります。

縄文土器や木製品も多量に出土しました。祭祀用と考えられる男根形木製品だんこんけいは全国的にも例が少なく、縄文人の信仰を探る貴重な資料です。

その他、漁労具と考えられる土器片どきへん錘や石錘も 1,400 点以上出土しました。



貝殻を含んだ層



縄文土器

⑥ ^{なかやまなか}中山中遺跡【射水市指定史跡】（縄文時代後期：約 4,000 年前）～晩期（約 3,000 年前）

中山公園の北側、射水丘陵の北端にある縄文時代後期から晩期の遺跡です。

元は小杉高校の農場として利用されていた場所で、昭和 28 年（1953）に同校の地歴部が発掘調査を行い、縄文土器・石斧・土偶などが出土しました。

平成 13 年（2001）の発掘調査では、縄文時代の谷（土器捨て場）が見つかりました。また、古墳時代初期の竪穴住居跡や古墳時代後期の古墳周溝も確認されました。



平成 13 年調査区全景（西から）



土偶



旧石器・縄文時代の主な遺跡

【お問い合わせ先】

射水市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 文化財係

TEL : 0766-51-6637 FAX : 0766-51-6663

E-mail : bunkazai@city.imizu.lg.jp

射水市埋蔵文化財センター

TEL・FAX : 0766-55-2238